

1. 事業概要

【背景】

生物多様性保全上重要な地域である国立公園等では、近年、シカの増加による自然植生の食害が著しく、高山植物群落の消失や亜高山帯の針葉樹林の立枯れなど深刻な影響がみられ、国立公園等の自然風景地の価値や生物多様性の劣化に加え、食害による表土流出・土砂崩壊の発生など、国土保全上も看過できない状況になりつつある。

このことから国立・国定公園内の生態系を順応的かつ総合的に管理する制度として、平成21年度自然公園法改正により「生態系維持回復事業」を創設した。これに基づき、生態系被害が著しく、優先的に対策を講ずべき国立公園等において、生態系維持回復事業計画等シカ管理計画に基づく効率的なシカ対策を実施することとしている。

【実施内容】

(1) シカ管理計画策定事業

シカの本格的な駆除に向けた調査、体制構築、生態系維持回復事業計画等のシカ管理計画の策定、試験的なシカの駆除などを行うことで効率的なシカ対策を講じるための基盤構築を図る。

(2) 先進的なシカ管理対策モデル事業（平成24年度～）

(1)により基盤構築がなされた国立公園等において、大型仕切り柵を併用した囲いワナやシャープシューティングの導入など先進的な捕獲手法を駆使した本格的なシカの駆除を行い、生態系被害の軽減を図る。

2. 施策の効果

植生の現況把握、シカの行動圏把握などにより科学的かつ効率的なシカ管理が、関係機関・団体と役割分担した協働体制のもとで講じられ、シカによる国立公園等への生態系被害の軽減及び健全な生態系の回復が図られる。

国立公園等シカ管理対策事業費

(1)シカ管理計画策定事業

(本格実施に向けた調査・調整等)

シカの生息状況調査

- ・生息数の推定、行動圏の把握
- ・季節移動経路・越冬箇所の特定

自然環境現況・シカ影響調査

- ・シカの影響調査(動植物)
- ・守るべき植生の状況、分布等の把握

生態系維持回復事業計画の策定

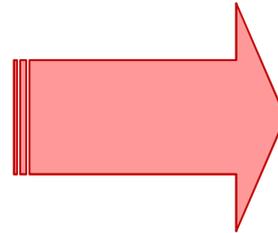
- ・地域協議会の設置による合意形成の推進
- ・関係者間の方針、役割分担等の共有

試験的な対策実施と手法開発

- ・植生防護柵の試験的な設置
- ・試験捕獲の実施
- ・効果的な捕獲手法の検討

モニタリング・効果測定

- ・シカの生息状況と試験的対策実施による植生の状況、分布等の変化



(2)先進的なシカ管理対策モデル事業

(本格実施と効果測定)

シカ個体数調整の実施

- ・生態系維持回復事業計画等に基づきシカの個体数調整の効果的な実施

モニタリング・効果測定

- ・シカの生息状況と試験的対策実施による植生の状況、分布等の変化

(1)シカ管理計画策定事業においてシカの個体数管理に係る知見・技術・体制が十分に整った地域は、(2)先進的なシカ管理対策モデル事業で本格的な個体数調整を実施し、国立公園等の自然環境を保全する。